

「基礎看護学」学習指導案

広島県立広島皆実高等学校
教諭 安 吉 椋 子

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本洋子）

本学習指導案では、事例の患者の情報を整理し、実際の患者をイメージさせ、褥瘡の発生リスクについて考え、倫理的課題を踏まえて褥瘡予防に関する援助を思考させるよう工夫されています。

また、ワークシートを工夫することで生徒自身の思考を整理し、グループで話し合った内容を、デジタル機器を活用して共有することで、生徒の発言に対してさらに他の生徒が質問し、思考を深めながら課題に取り組むことができる展開となっています。

1 日 時 令和4年11月28日（月） 第4限

2 場 所 1年2H HR教室

3 対 象 看護科1年2H 40名

4 単元名 診療に伴う援助 ウ 創傷管理

5 単元の目標

- ①褥瘡の治癒過程及び、褥瘡の発生要因や誘因、好発部位について理解する。
- ②創傷管理に伴う基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出す。
- ③創傷の治癒の促進及び褥瘡の予防に伴う援助について自ら学び、対象の安全・安楽を守り、主体的かつ協働的に取り組む。

6 単元について

(1) 単元観

褥瘡について、「身体に加わった外力は骨と皮膚表層の間の軟部組織の血流を低下、あるいは停止させる。この状況が一定時間持続されると組織は不可逆的な阻血性障害に陥り褥瘡となる。」と定義されている（日本褥瘡学会）。褥瘡の発生は患者に苦痛を与え、疾病の治癒を阻害することになる。しかし、褥瘡は発生の要因や誘因、褥瘡の分類やステージ・好発部位を理解し、適切な看護によって予防することができ、また悪化させずに治すことが可能である。看護するものは褥瘡について十分な知識をもち、褥瘡予防の重要性を理解することが大切である。

(2) 生徒観

生徒は5年一貫看護教育制度の1年生であり、入学時より「基礎看護」「人体と看護」「看護臨地実習」等の専門科目を学習している。一学期末に生徒に実施したアンケートの結果は、授業で学んだ知識・技術から学びを深めることができた、さらに発展的に学びたいと感じているという項目に対し、クラスの9割以上があてはまると答えており、生徒は積極的に学ぶ意欲を持っている。

(3) 指導観

本単元は、これまで学んだ「活動と運動」「清潔と衣生活」「食事と栄養」の知識と技術を活用する単元である。既習の単元の内容を想起させ、関連付けて理解させたい。褥瘡形成の要因・誘因を学習し、事例を活用し褥瘡発生の予防策を思考することにより、看護者の役割についても考えさせたい。また、倫理観を踏まえて解決策を見いだせるようにグループワークを実施し、生徒同士の意見の共有により思考を深めさせたい。

7 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
褥瘡の治癒過程及び、褥瘡の発生要因や誘因、好発部位について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	創傷管理に伴う基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだそうとしている。	創傷の治癒の促進及び褥瘡の予防に伴う援助について自ら学び、対象の安全・安楽を守り、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

8 単元の指導計画（全7時間）

次	学習内容 (時数)	評 価				
		知・技	思・判・表	主	評価規準	
1	創傷とは 創傷治癒の過程 (1時間)	○		◎	創傷について理解している。	①②③
2	創傷処置と看護 (1時間)	◎			創傷の種類・処置の方法について理解し、技術を身に付けている。	①②③

3	褥瘡の発生要因 (1時間)	◎	○	褥瘡発生の要因や誘因・好発部位が、患者の日常生活動作と関連することを思考し、課題を見いだしている。	①②③
4	褥瘡の予防 (1時間) 本時	◎	○	褥瘡予防の方法と倫理観を踏まえて課題の解決策を見いだしている。	①②③
5	褥瘡の処置 (1時間)	◎		褥瘡の処置について必要な知識を身につけている。	①②③
6	褥瘡予防 実習 (2時間)	◎	○	褥瘡予防のために必要な体位の工夫について思考を深め、表現し、適切な援助を行うことができる。	①②

①授業態度 ②ワークシート ③定期試験

9 本時の授業

(1) 本時の目標

事例患者の日常生活において、褥瘡予防の援助を考え、倫理的課題の解決策を見いだすことができる

(2) 観点別評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	創傷管理に伴う基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだそうとしている。	

ルーブリック

A (十分満足)	褥瘡発生の要因や誘因、予防の援助を十分に考え、倫理的課題の解決策を見いだしている。
B (おおむね満足)	褥瘡発生の要因や誘因、予防の援助を考え、倫理的課題の解決策を見いだしている。
C (努力を要する)	褥瘡予防の援助を考えることができる。

(3) 準備物 ・教科書 基礎看護／文部科学省 ・副教材 新看護学6／医学書院, 新看護学7／医学書院 , 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術／医学書院 ・ワークシート ・iPad

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
導入 5分	1 本時の目標の確認をする	本時の目標を説明する, 授業の流れを説明する。		
展開 40分	2 患者さんの事例を確認する			
	<p>本日あなたは実習生としてAさんを担当します。Aさん80代女性。身長156cm, 体重40kg。歩行困難となり1日中ベッド上で過ごしている。一人で寝返りをうつことはできない。食事はベッド上で経口摂取し、排泄はおむつを着用している。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> Aさんは褥瘡発生リスクが高い理由を事例から挙げる。 個人で考え、発表する。 患者の一日の流れと褥瘡発生の要因をワークシートを用いて確認する。 事例患者に褥瘡が発生しないようにするために必要な援助を考える 個人→グループワーク→発表する。 	<p>事例を確認し、事例患者さんの日常生活を想像するように促す。</p> <p>机間巡視を行い、記入できていない生徒には、教科書を用いて生徒自身が考えられるよう促す。</p> <p>グループワークに参加できていない生徒には声をかけ、参加を促す。</p>	<p>創傷管理に伴う基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出そうとしている。[思考・判断・表現]</p>	<p>ワークシート 授業観察</p>
	3 課題を見出す ・追加の事例を提示する。			
<p>体位変換のために訪室したとき、Aさんに「体位変換はしたくない。ゆっくりしたいからそのままにしてほしい。」といわれた。そのまま退室し、しばらくして訪室した際も同様の反応であった。あなたはどうしますか。</p>				
	4 課題解決をおこなう。 個人で考える→グループで考える →発表する。	発表を聞きながら、他のグループは自分たちの考えとの類似点や相違点を意識して聴くよう指示する。		
まとめ 5分	5 振り返りを行う 学んだことをワークシートに記入する。 数人発表する。	日常生活援助のなかでも予防することができる。 患者さんを尊重したかわりが必要である。		